第６回世界水フォーラムへの参加

企画部兼技術評価部
副部長
永橋　尚男

下水再生水利用のセッション

Time for Solutions「解決の時」をテーマとする第６回世界水フォーラムが，３月12日から17日までの日程でフランス・マルセイユ市のパークシャノ国際会議場で開かれ，173カ国から約３万5000人が参加しました。14日には国土交通省，日本下水道協会共催による再生水利用セッションが開催され，満場の出席のなか佐藤国土交通省技監の挨拶に続き，堀江国土技術政策総合研究所下水道研究部長の進行で会議がスタートしました。

プレゼンテーションでは，香川県多度津町の丸尾町長と田中上下水道課長から「日本における下水再利用の成功事例」として，「安定した水資源確保」や「環境保全」をテーマに下水処理水を新たな水資源とするプロジェクトの立ち上げから実施まで，再生水の多目的利用についての取り組みについて発表がありました。続いて，米国，中国，フランスの取り組みの紹介，また，後半には船水北海道大学大学院教授による「下水の再利用管理の概念（混ぜるな・集めるな）」の発表をはじめとして，アフリカのソウ教授，藤木ISO/TC224下水道国内対策委員会委員長による「北東アジア地域での下水の再利用に係る標準化」について発表があり，最後に堀江部長からコミットメントが読み上げられました。

開会式の模様

大盛況だった再生水利用セッション

ジオライト下水処理場の視察

翌15日のテクニカルツアーは，ジオライト下水処理場を視察しました。同処理場は，1987年から物理化学処理を開始し，EUの水質規制強化に伴って2008年から生物処理施設を増設しています。処理人口は約186万人で，18の行政区のうち16区分を処理して地中海に放流しており，地下の処理場としては世界最大です。SERAM（運営会社）が運転・保守をしているこの施設は，マルセイユの中心に位置するため景観に考慮した施設となっており，視察順路には分かり易くパネルを配置し，管廊の壁面には明るいカラーの塗装をするなど，下水道施設は迷惑施設というイメージを払拭するような配慮がなされたもので大変参考になりました。

ジオライト下水処理場視察